

(1) ごみ減量と家庭ごみ有料化に関するアンケートの考察

1 基本属性

- ・ 回答者は、「男性」が多く、家族の人数は「3人」が最も多い割合となっていた。
- ・ 回答者の年齢は60歳以上が全体のほぼ半分占めている。
- ・ 回答者の8割近くが戸建て住宅に住んでおり、戸建て住宅に住んでいる方のごみ問題に対する関心の高さが見て取れる。

2 ごみ減量・リサイクルについての関心

- ・ ごみ減量・リサイクルについて、「大いに関心がある」と、「少し関心がある」を合わせると回答者の9割以上が、ごみ減量・リサイクルに関心を持っている。
- ・ ごみ減量・リサイクルのために実践していることとしては、「ごみと資源の分別をきちんとしている」、「マイバックを持参して買い物をしている」が、それぞれ3割近くを占めており、取り組みやすい日常生活の中からごみ減量・リサイクルに取り組んでいることが伺える。
- ・ 生ごみ・容器包装プラスチックの分別収集については、「積極的に分別を行っている」と、なるべく分別をしようとしているを合わせると9割を大きくこえている。
- ・ 分別をしない理由として、「分別をする理由が分からない」、「分別の仕方が分からない」、「難しい」を合わせると3割を超えている。今後も啓発に努める必要があると思われる。
- ・ 収集回数については、概ね現状の収集回数で満足していることがわかる。今後ごみ収集サービスの維持・向上に努めていく必要がある。
- ・ 市に必要な取り組みとして、「情報提供」が一番多くあげられている。今後今まで以上に効率よく情報を提供する方法を検討する必要がある。

3 家庭ごみのごみ処理有料化

- ・ 有料化することの効果として、「リサイクルが推進されること」、「ごみ発生の抑制につながること」、「ごみ処理費用負担の公平化が期待される」一方で、3割近くの人が「不法投棄が増加すること」を懸念していることが分かった。
- ・ 有料化実施の配慮点として、「リサイクルに関する情報提供」、「資源物を直接持ち込める場所の設置」、「有料化による効果や費用についての説明」が求められている。
- ・ 有料化に伴う意識の変化については、「積極的に取り組むと思う」と、「変わらないと思う」がほぼ半々の状態であった。
- ・ 積極的に取り組むという人は、「分別を徹底する」、「マイバックを持参することに取り組む」という意見が多かった。
- ・ 「変わらないと思う人」は、すでに努力しているためこれ以上の努力は難しいという意見が9割弱を占めている。